

**取組実績の概要** 【2ページ以内】**【交流プログラムの枠組み】**

本プログラムでは、神戸大学、復旦大学、高麗大学の3大学が「東アジアにおけるリスク・マネジメント専門家養成」を目指して教育プログラムを実施するものである。3大学は、パイロットプログラム期に、1) ダブルディグリー、2) 交換留学、3) 短期文化・語学研修、4) インターンシップからなる交流枠組みを構築しており、第2期プログラム開始後まもなく学生の派遣・受入を実施した。

一方、第2期プログラムにおいては、より多様な学生のニーズに応えるために、一人の学生が2大学で6ヶ月ずつ交換留学を行う日中韓トライアングル留学を制度化したほか、より高度な専門家の育成の観点から、派遣・受入学生の対象を博士後期課程の学生に拡大した。さらに、即戦力のある実務家養成の観点から、インターンシップ参加による単位取得を制度化し、リスク・マネジメント関連機関における学生の実務研修の機会を拡大した。また、第2期プログラムの特徴として、各大学において短期プログラムを拡充し、学生交流の規模の拡大および長期留学への動機づけを図っている。これらの取り組みによって、派遣学生数は大幅に増加したほか、受入学生数も目標人数に達している。

**【質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み】**

3大学は、パイロットプログラム期に相互に学術交流協定を締結し、ダブルディグリー／交換留学における単位認定基準・成績評価方法などを制度化している。第2期プログラムからは、教育の質の保証をさらに高めるため、これまでの実務者会議を教員連絡会議に再編し、所属大学と派遣先大学の指導教員がダブルディグリー生の共同研究指導の仕組みを整備した。また、3大学は合同国際シンポジウムを毎年開催し、教員間において運営の方向性を議論するほか、プログラム参加学生の修了成果を発表する機会として活用されている。3大学間の協議に基づき、2017年度には、3大学の教員による共同講義を実施し、国際舞台で通用する人材の育成につとめた。2018年度には、復旦大学が主催する国際学生学術コンペティション「YICGG」の運営委員会に本学国際協力研究科が参加することに合意する覚書が締結され、コンソーシアム内の教育・学術交流の制度化が図られた。2019年、2020年は3大学教員によるオンライン共同講義を実施し、COVID-19の問題を含む災害経済、教育、政治、環境課題等について幅広い分野のリスクアプローチについて講義を開講した。2017年度からは修了生が中心となり同窓会の整備が図られ、本プログラムの活動を広報するとともに、修了生と在学生、また新入生間の情報共有ネットワークを構築した。

**【本学の事業実施体制】**

本学では、質保証を伴った教育プログラムを実施し、実践型グローバル人材を育成するという大学の国際化戦略のモデルとして本プログラムを位置づけ、本学国際連携推進機構の関与を強化するなど、全学レベルの実施体制を整備してプログラムの運営に当たっている。特に、開発援助・防災分野における本学の強みを活かし、国際機関・NGOで活躍する実務家や専門家を招聘して行う「リスク・マネジメントセミナー」を2016年度に1回、2017年度に5回、2018年度に4回、2019年度に3回、2020年度に3回実施したほか、インターンシップ提携機関を新規に開拓し、世界銀行やUNESCOといった国際機関に学生をインターンとして派遣した。2017年～2020年インターンシップ派遣学生数は計22名にのぼる。

## 【本事業における交流学生数の計画と実績】

(単位：人)

	2016年度		2017年度		2018年度		2019年度		2020年度		合 計		
	派 遣	受 入	派 遣	受 入	派 遣	受 入	派 遣	受 入	派 遣	受 入	派 遣	受 入	
計画※	11	8	15	10	15	10	17	10	17	10	75	48	
実績	実際に渡航した学生 (以下「実渡航」)	9	8	36	10	26	11	28	11	0	0	99	40
	自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生 (以下「オンライン」)									8	2	8	2
	実渡航とオンライン受講を行った学生 (以下「ハイブリッド」)												

※海外相手大学を追加している場合は、追加による交流学生数の増加分を含んでいる。

**特筆すべき成果（グッドプラクティス）**【1ページ以内】

## ○キャリア形成支援

リスク・マネジメント専門家としてのキャリア形成を支援するために、2016年度から2017年度にかけて、世界各国の国際機関を回り、インターンシップ先を開拓してきた。その結果、多くの学生が「リスク・マネジメント専門家養成」という本プログラムの趣旨に関心を持ち、プログラムの受入人数の安定化につながった。2016年度および2017年度において、本プログラムから派遣したインターンシップ先は、韓国・ソウルのイクレイ東アジア事務局、韓国・仁川のUNESCAP北東アジア事務所、タイ・バンコクのUNESCOバンコク、米国・ワシントンDCの世界銀行本部がある。今後も学生のニーズを踏まえ、インターンシップ提携先の新規開拓を行いたい。

## ○短期プログラムの活性化

各大学が短期プログラムを実施することにより、学生の留学に対する不安が解消し、さらに意欲を高めた学生がダブルディグリー／交換留学によって留学を継続することに繋がっている。高麗大学校は2016年度から、夏季休業・冬季休業期間に語学研修・研究フェローシップを実施しているほか、神戸大学では2017年度に、「キャンパスアジア科目」の集中講義に学生を受講させる形で短期プログラムを実施した。また、復旦大学は2017年度から、自身が主催する国際学生学術コンペティション「Youth Innovation Competition on Global Governance」に本学の学生3名からなるチームを受け入れた。

## ○教員間の学術交流の促進

3大学内で教員交流を促進することで、本プログラムにおける教育体制の拡充につなげている。2017年度には、リスク・マネジメントの多様な概念の習得を目的に、高麗大学校が開設した科目に神戸大学・復旦大学の教員が参加する形で3大学の教員による共同講義「Mainstreaming Risk Management in Development」を実施した。共同講義の実施によって、本プログラムが掲げる「リスク・マネジメント専門家養成」の趣旨が学生に共有され、より多くの学生がダブルディグリー／交換留学プログラムに参加することにつながった。また、本プログラムが求める人材像をより具体的に提示することが可能になり、インターンシップの開拓を積極的に進めたことにより外部機関との連携がより円滑になった。2021年2月には、リスク・マネジメントに関する3大学共同論文集を編集し、書籍「Risk Management in East Asia」を発行した。

## ○3大学合同国際シンポジウムにおける学生セッションの実施

3大学は毎年、合同シンポジウムを開催している。このシンポジウムは本プログラム参加学生にとって研究成果の発表の場となっている。3大学の教員からフィードバックを受けることにより研究意欲を高める機会となり、さらには学会発表のプレゼンテーション技術を磨くための貴重な場となっている。なお、同シンポジウムは、2016年度は神戸大学、2017年度は復旦大学、2018年度は高麗大学校、2019年度は神戸大学で開催された。2020年度は、COVID-19の感染防止の観点から、シンポジウムの開催に代わってオンライン3大学論文コンテストを開催した。

## ○被災地フィールドトリップの実施

学生が実際のリスク・マネジメントに求められる知見を学習できるよう、阪神淡路大震災・東日本大震災の被災地にてフィールドトリップを実施している。実際に被災された方の声を聴くことによって、現場の声を反映した復興・防災とは何かという問題意識を学生が持つようになり、研究や進路を考えるにあたって貴重な経験の場となっている。年度および場所は次のとおりである。

2016年度：神戸市長田区、岩手県盛岡市・大槌市、兵庫県淡路島

2017年度：神戸市中央区、宮城県仙台市・亶理町

2018年度：神戸市中央区、岩手県盛岡市・陸前高田市

2019年度：神戸市中央区、岩手県盛岡市・陸前高田市

2020年度：コロナのため中止